ODA

沖縄脊髄損傷者連合会

しゃりん 102号

発行：沖縄県身体障害者福祉協会
編集：沖縄脊髄損傷者連合会　ＴＥＬ/ＦＡＸ　０９８-８８６-４２１１
〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1 西棟2階 ボランティア小規模団体室
E-Mail　sekiren@proof.ocn.ne.jp
HomePage　http://www.normanet.ne.jp/~ww500008/

沖縄に脊損患者の超急性期対応の医療システムを求めよう！

沖脊連発足からの1丁目1番地の活動目標である「総合リハビリテーション体制の整備」は、様々な要請や訴えにもかかわらず、未だに見通しが立っていないどころか議論の棚にもあがらない状況にありました。ところが国会では沖縄県の脊髄損傷者患者の急性期医療体制に関する質疑応答がありました！驚きとともに大きく期待を膨らましていたところ、公明党の秋野公造参議院議員と金城勉沖縄県議会議員から連携の申し出があり、10月16日に懇談する機会をもち、有意義な意見交換をさせていただきました。

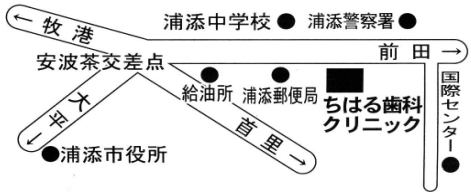
この経過を踏まえ、今後は沖縄県へのリハ体制整備についての要請行動を行いたいと考えています。※国会答弁記録の抜粋を記載します。

■平成２４年７月２４日参際予算委員会

○秋野公造君（参議院議員：公明党）

福岡県飯塚市には、我が国が誇る脊髄損傷センター、総合せき損センターというすばらしいセーフティーネットがあります。顎しかもう動かなくなった方、首から上しか動かなくなったような、そういう交通事故災害により頸髄、脊髄を損傷した方であっても、十四日以内にそこに搬送されたならば、十か月間のリハビリを行うことによって約八割の方が社会復帰をすることができる、世界に誇る医療機関があります。

ちはる歯科クリニック
CHIHARU DENTAL CLINIC
浦添市仲間3-3-9
☎(098)877-6480
FAX (098) 877-9251
E-mail chiharu@ryukyu.ne.jp



訪問歯科診療と口腔ケアを行なっています！
対象者：在宅療養をしている個人で、通院が不可能な方。
病院、保健施設等に入所(院)されている方、障害者施設に入所の方。

こういった取組というのはもっともっとどうか強く強化をしていただきたいとお願いをするところでありますが、この恩恵を受けることができないのが沖縄県だけであります。理由は、遠いからであります。三十数年間、沖縄の脊髄損傷者患者はこういった高度な医療を受けることが今まで一度もなかったということであります。

総理にお願いをしたいと思います。沖縄の脊髄損傷患者を救っていただきたいと思います。沖縄の脊髄損傷患者が医療を受ける体制をつくっていただきたい、そのように念願をしますが、総理の見解、求めたいと思います。

○内閣総理大臣（野田佳彦君）

脊髄損傷者については、今委員ご指摘の通り、福岡県にある総合せき損センターなどの施設や各地域の医療機関の連携により対応してきております。国としては、患者さんがお住まいの地域で急性期からリハビリ、社会復帰まで切れ目のない医療が受けられるよう、議員御指摘の点も含めまして、沖縄県とともに地域の体制の実態を把握し、対応の必要性について検討してまいりたいと考えております。

■平成24年6月19日参院厚生労働委員会

○秋野公造君

福岡県飯塚市にあるせき損センター、訪ねてまいりました。また、大分県別府市にある重度障害者センターを訪ねてまいりました。せき損センターは、損傷後二週間以内にリハビリを始めることによって八割の方が社会復帰を行うことができる、我が国の誇りであり、我が国の本当に誇るべきセーフティーネットであると考えています。ヘリコプターで運びませんと脊髄損傷に大きな影響を与えてしまうということでありまして、東側の限界というのは大阪までだそうであります。となりますと、南側の限界「沖縄県から本当にこういった患者さんを運ぶことができているのか、それが心配になりました。沖縄県からヘリコプターでの搬送の実績、ございますでしょうか。

○政府参考人（鈴木幸雄君）

総合せき損センターへの脊髄損傷者患者のヘリによる搬送についてでございますが、昭和54年以降の累計では沖縄県の患者の受入れ実績はないという状況でございます。

○秋野公造君

これは実態として沖縄から運べないということを意味するかと思います。ならば、沖縄の方は、せき損センターのような我が国が誇るべきセーフティーネットの恩恵を受けることができないという状況になります。運べないのであれば、沖縄県内でしっかり受入れ体制を考えるべきだと思います。内閣府の見解を求めます。

○大臣政務官（園田康博君）

御指摘、ありがとうございます。先生御案内のとおり、リハビリの充実でありますとか、あるいは今障害福祉の施策について御議論をいただいておりますけれども、これについては、県においてまず、医療計画でありますとか障害福祉計画でありますとか、そういったところできちっと計画を立てて施策を推進していくという形になります。その上で、国において行う施策といたしましては、まずリハビリの施設「あるいは障害者の施策等の整備、これに関しましては、今厚生労働省で執行している補助金の施策がございます。例えば、障害者福祉ザービス事業「自立支援であるとか就労支援などは、沖縄においても、全国の三分の一の補助金から沖縄県は三分の二というような形でかさ上げをさせていただいておりますし、また医療提供体制の施設の整備交

付金、これにおいても沖縄は四分の三ということで、全国ベースに比べると高い補助率でこの施策を推進させていただいているというのがございます。先生御案内のとおり。今年は沖縄復帰、本土復帰の四十周年ということもあり、また国会でも御議論をいただきました沖縄振興策、ここにおいて沖縄振興の一括交付金を創設をしていただきました。それに基づいて、県が主体的となって今この振興策について議論を行っていただいているという状況もございます。

そういった面では、私ども、今日は沖縄担当という形で答弁させていただきますけれども、こうした主体的な沖縄県「それが自主的にきちっと、様々な医療計画でありますとかあるいは障害福祉のサービスの充実でありますとか、そういったところをこういった一括交付金なども活用していただきながら進めていくということが大変重要なことではにかというふうに思っております。当然、今先生御指摘いただいたこの総合せき損センター、大変すばらしい施設であるというふうに私も認識をさせていただきました。やはり急性一用．ここからリハビリ、そして社会復帰といったところまでこれ一貫してやる施設というのはほかにはないという状況でございますので、こういった施設も含めて沖縄県がしっかりとそういつたところを取り組んでいただけるというのであれば、私どもとしても支援をしていくということはあろうかなというふうに思っておるところでございます。

○秋野公造君

私は、国が果たすべきセーフティーネットであるからしっかり国が整えていくべきであるということを申し上げております。沖縄県に対して私の意見を伝えていただくということでよろしいか。

○大臣政務官（園田康博君）

失礼しました。議員の御指摘を踏まえてやります。議員の御指摘はしっかり沖縄県にもお伝えをさせていただきたいと思います。

第２０回九州ブロック身体障害者相談員研修会沖縄大会

去った11月8日（木）～9日（金）にかけて「第20回九州ブロック身体障害者相談員研修会沖縄大会」がパシフィックホテルにおいて開催されました。

この大会は、九州各県から150名ほど、県内参加者も合わせて総勢200名余りが参加し、会場も満杯の状態でした。研修内容としては「障害者総合支援法の動向について」をメインテーマに厚労省の相談支援専門官、遅塚明彦氏による講演、その後、熊本県、福岡市、宮崎県の代表者をパネリストに相談対応等の事例発表を、助言者として厚労省の遅塚明彦氏、長崎県代表、今大会の主管でもある沖縄県身体障害者相談員連絡協議会会長によるシンポジウムが開催され、有意義な内容となりました。

２日目は日本身体障害者団体連合会副会長による「日身連の活動状況について」の講演と２日間の総括が行われ無事終了しました。宮崎県からは全脊連宮崎県支部長の矢野光孝さんも参加し久々に交流を深めました。

第１回浜コン「浜辺の合コン＆サンセットライブ」

去る10月20日（土）に読谷村の旧渡具知ビーチで浜辺の合コン＆サンセットライブトグチ浜が開催され、沖脊連からも合コンに参加する者やライブ＆ＢＢＱに参加する者、ライブのみに参加する者、参加形態は様々ですが約30名の会員並びに介助者が参加しました。

このイベントは、ハンディキャップのため家に閉じこもりがちな方、出かけたくても外出するには支援が必要な方でも外に出て、人とふれ愛、仲間と出愛、みんなで楽しいひと時を過ごせる場をもちたい！という想いから、会員で読谷村在住の宮城幸春さんとケントミファミリーの皆さんが企画したもので、当日は天気にも恵まれ、ケントミファミリーの皆さんのライブやフラダンスチームの皆さんが余興に花を添え、とても楽しいひと時を過ごさせて頂きました。今回の参加者は、スタッフやボランティアも併せて総勢150名ほどが参加し、合コンでは５組のカップルが誕生したとのことで大成功だったと思います。

法人設立40周年記念事業／うらそえふくしまつりボランティアまつり

去った11月11日（日）、第14回うらそえふうくしまつり／第15回うらそえボランティアまつりが浦添市役所前広場・周辺広場で開催されました。

当日の天気はあいにくの曇り空、天気も何とか持ちこたえてくれましたがイベントは盛りだくさん、ま～さむん発見「てだこグルメ市」や市民福祉「川柳」、フリーマーケットなどが行われ、特設ステージでは琉神マブヤー握手会や子どもフェスタ、もちつき大会などが行われました。

中でも私たちの仲間でロンドンパラに日本代表として参加した仲里進選手、上与那原寛和選手によるパラリンピック報告会、進行役は沖脊連副会長の神里和彦がスムーズな進行役を務めました。この報告会の趣旨は、様々な層の方にパラリンピックという世界最高峰の舞台があること、それを目指して努力しているアスリートたちがいるということを知ってもらうことにあり、そしてロンドンパラに出場したアスリートの生の声を市民や地域住民に伝えたいとの趣旨で行われました。

その日の午後、アスリート２人は南風原町中央公民館で開催された第47回沖縄県身体障害者福祉大会のも参加し、同じくパラリンピック報告会を行いました。

大分国際車いすマラソン大会を参加して！

去る10月28日(日)昨日の雨が嘘のように天候に恵まれた中、11:00号砲と共に第32回大分国際車いすマラソン大会がスタートしました。前夜祭27日(土)は雨まじりの中ガレリア竹町ドーム広場にて“大分の風と応援の中、今、君は輝く！”を合言葉に開会式が16:00より行われ多くの選手とのふれあいがありました。フルマラソン参加者は106名、ハーフマラソン参加者は180名（うち海外選手57名）の合計286名が参加し、沖縄県からの参加者は9名、うち7名が完走いたしました。中でもハーフマラソン部門では日頃の練習成果が得られたようで、山入端依子さんが準優勝の結果をだしました。おめでとうございます。県参加選手はこの大会に向け6月／7月頃から練習をスタートし、3～4か月で調整を行います。その調整成果が出た方、出発当日熱発し出場を断念した方、練習に悔いを残す方など色々あった大会でした。健康管理の大切さと次へ挑戦など思い思いの誓いを胸に秘め今大会を締めくくりました。

（片倉）

平成２４年度共同募金運動への協力について

県共同募金運動は毎年目標額を掲げ、10月1日～12月31日までの３ヵ月間実施されます。沖脊連や他の車椅子スポーツクラブも一部共同募金配分金の助成を受けて活動していることもあり、かかわり方は様々で良いと思いますが、皆様がお住まいの地域においても積極的に協力していただきたくご案内致します。

また、12月1日から「みんなでささえあうあったかい地域づくり」をスローガンに、全国各地で「歳末たすけあい運動」がスタートし、県共同募金会に寄せられた募金は、各地の小規模作業所等団体の年末、年始活動の支援や、離島の高齢者・障害者等の要援護世帯の義援金、法外援護施設への義援金として、配分されます。

昨今思うこと

上里　一之

僕が会長に就いたのは仲根さんの後で、34歳から44歳の間の11年間。その間は浦添市の福祉プラザに脊連の事務局があって、そこで大城昌彦さんが浦添身協の仕事をしながら脊連の事務をしてた。

そして僕が会長就任後しばらくして、当時首里の更正指導所を取り壊して今の沖縄県総合福祉センターができることになった。そしてそこに7つぐらいの任意団体が入れるってことになって、当時浦添市の福祉プラザに事務所を置いていた沖脊連も申し込んで、事務所を移転することになった。

会長に就任してしばらくして、しゃりんは牧志努さんにお願いしていた。当時は家にずっといて、たまに事務所に来る感じ。新しい事務所に移ってから2年ぐらいは自分が事務局兼会長もやっていたね。月曜日から金曜日まで、毎日。午後の時間。当時は（一之さんが現在いる）チーム沖縄の事務所もなかったから。

その事務所を移した前後の頃、大城昌彦さんが3年ぐらいダウンして沖脊連を離れた時期があったわけよ。その時は沖脊連の仕事を一人で切り盛りしていて、正直きつかった。昌彦さんの存在の大きさを痛感したね。それプラス、周りからのサポートもあまり無かったから、より孤立していた。キツかった。まあ、周りに自分の状況を伝えるっていうのも弱かったと思うんだけど…。

そこで、牧志努さんを少しずつ育てて、なんとか事務作業がまわせるぐらいになってもらった。まぁ、努は努で無年金で生活が苦しかったけど沖脊連で仕事することで、少しは手当が出るようになって生活費を糧にしてとってもがんばっていた。そうそう、僕が会長に就任して1年か2年してから、若い会員が二人相次いで亡くなったわけよ。非常に苦しかったし、きつかったなー。うち一人は役員でがんばっていて、レクリエーション担当をして、すごいがんばっていたんだけどね…。

そんな中、世間では自立支援法っていうのができることになって、それに向けて障がい者団体と話し合わないといけないねってことになって集まりだしたのがチーム沖縄だわけさ。チーム沖縄を作ったっていうのは、まあ、僕が言い出しっぺで呼びかけたからね。すぐ僕はチーム沖縄の代表になって、自立支援法に向けて県内の障がい者団体は連携していきましょうって。そうして沖脊連の会長をやりながら、チーム沖縄の立ち上げもしないといけない状態の時にかおりさんが次期会長になるって手を挙げてくれて、またそれがうれしかったね。それから彼女、2～3年がんばってくれていたさーね。彼女、すごく勇気があるなーって思った。そこで脊連の会長職を平田かおりさんにバトンタッチして、事務局を牧志努さんにお願いして、そしてチーム沖縄に移ってきたわけさ。その間もずっとピアサポート活動はやってきてたよ。

沖脊連の仕事でがんばったことは、2回の実態調査に携わってきたことかな。福祉の面でもいろいろと話を聞いたり意見を言ううちに、いろんな審議会に身障者の代表として意見提言というかんじで呼ばれるようになってきた。それって沖脊連という枠を超えた内容だからね、おそらく僕は1回も休まなかったさー。当時、僕はそういうのの「代表」ではないけど、身体障がい者の代表としていろいろと意見を言ってくれってお願いされるので、向こうからしたらその時点で「代表」になるわけさー。

そしていろいろなところで「代表」とされて呼ばれるうちに、沖縄県の障害者施策推進協議会という障がい者が県に意見をいえる協議会があって、そこにも沖脊連が呼ばれるようになったんだ。今でもかおりさんや会長の仲根さんが呼ばれていろいろ意見しているよ。それと、福祉のまちづくり条例の審議委員会にも沖脊連のメンバーが入るようになったんだよ。あとは障がい者スポーツの普及への支援だね。

今現在はチーム沖縄に所属していて、週3回、午後の時間帯にいるよ。主に知的や精神障がい者も含めた相談支援活動をやってるね。それが大きな柱の一つ。

もう一つは地域を含めた福祉活動。具体的に言えば、年に2回ぐらい沖縄愛楽園へ行って、愛楽園の歴史とかを学びながら空き缶拾いをしているよ。きっかけは障がい者の権利条例関係で愛楽園へ足を運ぶようになってから、それで繋がるようになった。あとは、障がい者のいろんな生活の問題などの勉強会を行ったり、講演会を開催している。

これから脊連に求める活動としては、老若男女のバランスのとれた会員の確保かな。若いメンバーの役員への参加を希望しているよ。ここ最近ずーっとテーマになっているけど、会員の数が減少の一途をたどっているさーね。これって役員だけの問題だけじゃなくて、会活動に関わっていない会員も会活動を意識してほしいなっていうのは思う。例えばビーチパーティーや忘年会やらのいろんな企画をするんだけど、結局同じようなメンバーしか残っていないさーね。そこらへんをもっと、みんなに連携のための会活動を意識して参加して欲しいなって思う。自分のメリットを求めることも大切なんだけど、福祉の人材としての活動の席に参加してもらいたい。意識をもうちょっと高めて欲しいと思う。それには福祉のネットワークをもうちょっと強化していく、例えば医療ソーシャルワーカー協会との繋がりとか。担当を決めて毎月でもいいから協会の話し合いに参加していくとか。前に何回か参加はしたんだけど、なかなか続けられなかった。でも向こうから来てもらうのもありだと思うよ。まあ、もっともっと若いメンバーの参加を求めたいねー。

僕らは65歳になったら介護保険への切り替えがあるさーね。僕らのような重度の障がいで普段から福祉サービスを利用している人であれば介護保険に切り替えずにそのまま継続して使える可能性があるとは言われているわけさ。それが他の脊損の人にも同じようにいくかと、そうではないらしいわけさ。介護保険に切り替えないといけない原則みたいなものもあるし。手続きの時に切り替えをしたくない理由をうまく伝えることができればいいんだけど、うまくそれを伝えることができなかったら介護保険でやっていくしかないんだよね。それだとまずいと思ってて、介護保険に切り替えなくてもすむようになるような仕組みを要請しないといけないと思っている。福祉サービスから介護保険に変わると、例えばこれまで僕らは車いすとかはぜ～んぶ福祉サービスでもらっているわけさ。それが65歳を超えて介護保険に変わると、車いすとかは「貸与」になる。シャワーチェアとか便器とかもね。借りないといけなくなる。そういうのも福祉サービスとして継続して使っていけるように僕たちが要請していかないといけない。これからはそんな問題が増えていくと思う。来年で50歳だしね。

（聞き取り：砂川）

～はじめての一人旅～

第36回 九州ブロック会議大分大会へ一人で行ってきましたが・・・

去った10月12日～13日にかけて開催された「第36回九州ブロック会議大分大会」に参加する為、初めての一人旅を経験しました。

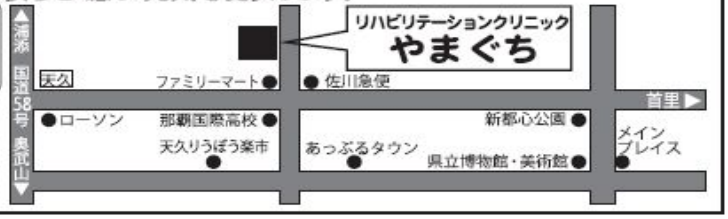
10月11日の午前10時45分那覇発の飛行機で福岡へ行き、福岡空港から地下鉄で博多駅まで移動、博多駅から大分県別府市まではＪＲの特急列車で移動する行程が組まれていました。出発日の午前８時に自分の車で那覇空港へ向けて家を出ました。予想では10時前には那覇空港に着く予定でしたが、途中に何か所かで渋滞に巻き込まれ空港の立体駐車場に到着したのは10時で、満車の表示が出ていたけど、係員に身障者用の駐車スペースは空いているんじゃないですか？と言って無理やり入ってい行ったけど、全国障がい者スポーツ大会に参加する選手団と出発時間帯が重なっていたらしく身障者駐車スペースも空きがなく、立体駐車場内をぐるぐる回り駐車スペースを探しいるときに身障スペースから出ようとして車があったので、その車が出るのを待って、やっと駐車することができたので、急いで搭乗手続きカウンターへ行ったら既に搭乗手続きは始っていました。焦っている私の顔を見ていたのか係り員が一人中から出てきて優先的に手続きをしてくれたお陰で一般客が搭乗する数分前に機内へ案内されました。

福岡空港へ到着し、今度は地下鉄の駅へ行くのも簡単ではありません、ホームへ行けるエレベーターは一箇所しかなく自分では探すことができず、空港ビル内にあった銀行へ行き教えてもらいました。（女性銀行員が親切に案内してくれました。感謝）。地下鉄に乗るには自動券売機で乗車券を買わないといけど、自動券売機を使うのも初めてで取り扱い説明があるわけでもなく、近くにいた人に「博多駅までの券を買いたいけどどうしたらいいですか？」と聞いても250円です、としか答えないし、地下鉄での移動をあきらめて戻ろうしたときに駅員らしき人が通りかかったので、その方に買ってもらい、何とか博多駅まで移動し、博多駅でＪＲ特急列車に乗り換えないといけないので、真っ先に駅員室へ行き案内してもらいました。列車での移動時間は２時間余りでデッキの柱に抱きついたままでの移動でした。

到着した別府駅では観光案内所に行ってホテルまでの道を尋ねたら車椅子での移動は無理と言ってタクシーを手配してくれました。

ホテル到着後は疲れ果てて外へ出る元気もなく夕食もホテル内で済まし、その日は酒も飲めず早めに寝て翌日の会議にそなえました。会議の開催される日は早めに起きて、朝ごはんもしっかり食べて会議に参加したけど、配られた資料を見て、各支部の報告があることを知り、ビックリすると同時に自分の番が回ってくるまでドキドキしていて各支部が報告をした内容もほとんど覚えていませんが、沖縄県支部の活動が羨望を受けている事は分かりました。（枝川）

発行人　沖縄県南風原町字神里六三一　沖縄県身体障害者福祉協会
編集人　沖縄県那覇市首里石嶺町四―三七三―一　沖縄県総合福祉センター西棟二Ｆ　ボランティア小規模団体室・沖縄脊髄損傷者連合会しゃりん編集部　砂川昭人
購読料は会費に含む【頒価二十円】

R.C.Y.
Rehabilitation Clinic Yamaguchi
リハビリテーションクリニック
やまぐち
〒900-0003　那覇市安謝 1-10-28
TEL 098-864-1100
安らぎ・癒し・元気を提供します。
診療スタッフ
医師　院長 山口 健 リハビリテーション科専門医
副院長 山口 浩 整形外科専門医
リハビリテーション　理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師
診療科目／リハビリテーション科・整形外科
▶身体機能訓練
▶身体能力訓練
▶言語訓練
▶摂食嚥下訓練
▶認知訓練

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00～11:30	○	○	○	○	○	○
午後 2:00～ 6:00	○	○	／	○	○	／